

中長期ビジョン 30

—NEXT 吹田 YEG—

はじめに

近年、世界人口の急激な増加が続き、現在の世界の人口は 74 億人を突破、5 年後には約 80 億人になると予測されています。

これに対して、我が国の人口は出生率の低下に伴い 2010 年をピークに 8 年連続で減少しています。この傾向は今後も継続することが予測されており 2030 年には 65 歳以上の高齢者 1 人に対し、現役世代が 2 人という比率になる時代が到来するとされており、吹田市においては、その立地性や利便性による良好な居住環境が評価され、現在も人口は増加し続けているものの、長期的にみればこの状況が持続できるとは限りません。

また、経済環境をめぐる問題は人口に関するものだけに限りません。中国やインドをはじめとするこれまで「途上国」と言われていた国の経済成長が著しく、今や世界経済を牽引するまでに至っています。AI、ロボット、IoT 等の第 4 次産業革命と言われる産業構造の変化が急速に進んでおり、企業規模の大小を問わず世界中でこの

変化への対応が求められています。

一方、頻発する地震や水害等の予測を超えた自然災害に対しても、行政にすべてを任せるとはならず、地域を支える地元企業として、災害に対し地域に密着した準備や対応能力が求められています。

このように、我がまち吹田を取り巻く様々な環境は日々変化しており、どのような状況下でも我々が目指す大きな目的に向け一歩でも近づくため、今まで諸先輩方が積み上げてきた歴史をしっかりと受け継ぎ、新たに今後 5～10 年を見据えた「吹田商工会議所青年部 中長期ビジョン 30」を策定しました。

この中長期ビジョンのもと、個性豊かな吹田 YEG メンバーの持つ力を結集し、各年度のスローガンを加えてより大きな推進力を得ることで、吹田 YEG が掲げる目的に向かって着実に力強く進んでいきます。

吹田 YEG の目的の再確認

吹田商工会議所は商工業の改善・発展を目的とする公益経済団体であり、その中でも中心的役割を担っている青年部には、吹田の経済の未来が懸かっているといっても過言ではありません。経済情勢・産業構造の大きな変化の中、我々は若きリーダーとして常に先を見据えて行動し、地域経済をけん引することが期待されています。そして、我々吹田 YEG の目的は、青年の立場から商工会議所の事

業に参画することにより管内の商工業の発展に寄与し、併せて会員相互の啓発と親睦を図ることにあります。我々は、常にこの目的の達成を目指して、地域経済の発展の大きな力となり、また、会員自身の事業発展にも繋げていかなければなりません。

その実現のためには「ビジョン＝目指す未来の姿」を形にして行動に移す必要があります。

吹田 YEG の組織の歴史

吹田 YEG は、吹田商工会議所の活動をより活発にするために、青年の力を結集させる目的で平成元年に設立されました。設立当初は、会員数 60 名、予算額約 180 万円からのスタートでした。その後、卒業された先輩がシニア会員として、人的また経済的にもご支援い

ただいたこともあって、現在は、会員数約 200 名（シニア会員含む）、予算額については、約 550 万円の規模で運営されるまでに至りました。活動内容についても、公開例会や市民向けの対外事業も積極的に進めるようになりました。

吹田 YEG の現状と課題

平成 24 年以降、吹田 YEG の会員数は飛躍的に増加する傾向が続いており、現役会員数では 150 名に迫る規模となりました。これにシニア会員を加えると 200 名近い会員を抱える吹田市内でも有数の団体となります。

会員数の大幅な増加により、吹田パル、ガンバ大阪関連事業（バブルックビューイング等）や FanFun 越ウォーク、吹田大冒険など大規模な対外事業を実施することが可能な団体となりました。また産業フェアにおけるブース出店や運営への参加についても、年々規模を拡大してきました。その他、吹田まつりへの参画等、吹田 YEG

の影響力が年々大きくなり、他の団体からも協力を求められる存在となりつつあります。

我々吹田 YEG が吹田市内の商工業の発展のために、効果的な対外事業を今後も実施していくためには、会員同士が深く、そして強く結びつく関係を築いていくことが重要です。しかしながら、会員数の急増に伴い、同じ団体に所属しながら、面識のない会員も増えてきており、このことは、例会や各種事業への出席率の低下を招きかねず、ひいては吹田 YEG の活動目的を周知徹底する障害になりかねません。そのためにも、親睦事業や各委員会、その他各種の事業

を通じて、会員間の連携を密にし、一人でも多くのメンバー同士で顔や名前、職業を一致させることができるよう、更なる工夫が必要となります。

同時に例会や対外事業、多種多様な青年部活動への積極的な参加により、各メンバーが吹田 YEG の存在意義、目的、そして自身の関わり方についてあらためて深く理解することが必要です。

さらに、各会員はそれぞれの貴重な時間を費やすことで青年部活動を行っています。このことは、各会員が青年部活動で得た貴重な経験と培った人脈を各事業所に持ち帰って活用しなければ意味があり

ません。また、時間を浪費することなく、有効かつ最大限に効果を発揮できるよう、各会員には、委員会や各種事業に臨む姿勢が求められています。

最後に、前述したとおり、吹田 YEG はこれまでの 30 年の歴史の中で、吹田市内だけでなく、他団体等にも影響力や発信力をもつ団体となりました。その結果、吹田 YEG のメンバーは、これまでよりも周囲から注目されていることを意識し、事業の際だけでなく、日ごろの行動においても、周囲に配慮することを意識した行動が求められます。

課題達成のための中長期ビジョン

(1) 誇れるまち、「吹田（ブランド）」の実現

- 地元の声を反映した提言活動の実施
- 吹田の未来や課題、事業活動の参考になるような公開事業の開催
- 市民や事業者が地元意識を高める対外事業の実施
- 市内の大学・学生・企業等の連携による地元商工業の活性化

我がまち「吹田」は、前段にもありますが人口減少が進む日本国内において、毎年多くの人が流入し人口が増えている大阪府下でも貴重な区域です。これは、歴史上、吹田が「商部大阪」を強く意識しながら発展しつづけてきたという経緯があり、恵まれたインフラ環境の中で、その利便性や整った居住環境を魅力として発信してきたことに起因していると思われます。また管内に大学が五つあることによる若者の活性化も要因として考えられます。

しかしながら異なる歴史上の側面として、中世以降、現在の吹田市の市域が一つのまとまった区域として存在したことがなく、現在の市域は、吹田・岸部・豊津・上新田の一部、そして最後に山田が合併してきたという経緯もあり、統一化された「吹田というまち」への意識はなく、居住地としての満足度は高いが故郷としての認識

度は低いようです。

整備されたインフラをベースにした都市の魅力は、高所得者層の流入を促進し、居住環境や教育環境・生活環境の良化に大きく貢献している反面、自然災害による環境の変化や近隣都市での新たなインフラ整備によって、その優位性が将来に渡って担保されるとは限りません。

これらのことを考慮し、地元商工業の発展につながるような行政や地域諸団体との連携、また地元商工業者の声を反映した本会との共同事業等により、既存の地域資源の有効活用や、新しい試みによる地域の活性化など、将来、市民や商工業者が吹田に住んで（営んで）良かったと思える街になることを目指します。

(2) 青年部活動の再確認

- 青年部活動への積極的な参加による会員相互の目的の共有
- 会員向けに青年部活動に関するセミナーの開催
- 青年部活動の自企業への還元に関する方法の研究

我々は、今後起こりうる時代の変化に対応するために、青年経済人として自由かつ革新的な発想が求められています。そのなかで、迷うことなく青年部活動を行うためには、この活動がどのような目的

を達成するために行われるのかを再確認・再認識する必要があります。その目的達成のために、事業や例会、委員会がどのような役割を持って企画運営されているかを理解しなければなりません。

(3) 効果的な事業・効果的な会議

- 統一された会議ルールの作成・徹底
- 事業の宣伝効果や効果的な情報発信のための SNS 活用
- 事業（委員会）における役割の細分化とそれぞれの責務の遂行

委員会においてひとつの事業を企画・運営することはかなりの労力を要します。我々会員は、自事業の活動時間を削いて青年部活動に従事しており、すべてのメンバーはそれぞれの貴重な時間が使われ

ていることを考慮し、それぞれの役割・責務を十分に果たすことで、最大限に効果を発揮できるよう配慮しなければなりません。